

道路政策の質の向上に資する技術研究開発

H26年度継続課題の中間評価・革新的研究調査(FS)評価について(概要)

中間評価・FS評価の位置づけ

1. 中間評価

1-1. 目的

1-2. 中間評価の対象

1-3. 中間評価の視点及び基準

1-4. 提出書類及び期限

1-5. 中間評価の体制

1-6. 中間評価の手順(スケジュール)

1-7. 評価結果の通知及び公表

2. FS評価

2-1. 目的

2-2. FS評価の対象

2-3. FS評価の視点及び基準

2-4. 提出書類及び期限

2-5. FS評価の体制

2-6. FS評価の手順(スケジュール)

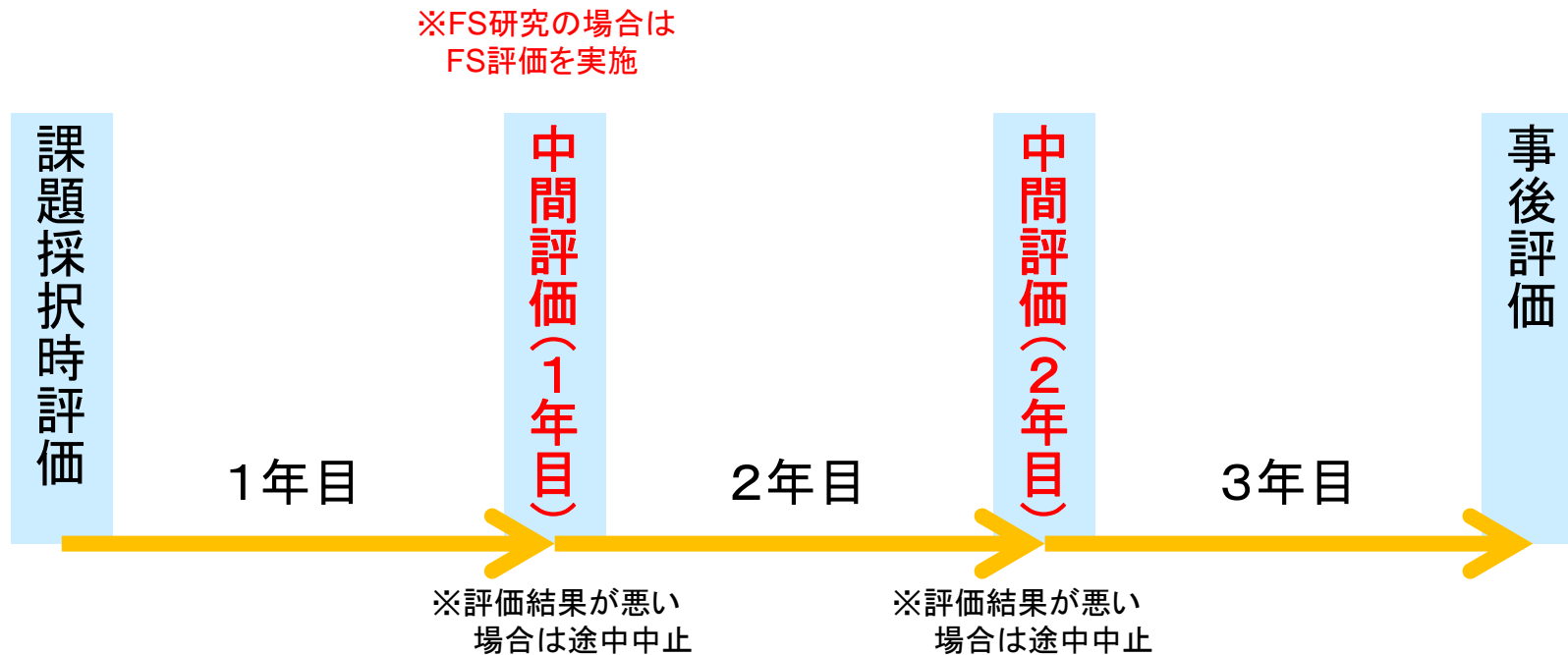
2-7. 評価結果の通知及び公表

別紙1 評価分科会委員(案)

別紙2 研究評価会 議事次第(案)

中間評価・FS評価の位置づけ

技術研究開発の採択～評価の流れ(研究期間3年の場合)



1. 中間評価

1-1. 目的

中間評価は、研究の適切な実施を図るとともに、次年度以降の研究費の適正化に資することを目的。

1-2. 中間評価の対象

複数年度にまたがる研究の最終年度を除く毎年度の研究成果。

1-3. 中間評価の視点及び基準

(1) 中間評価の視点

(1-1) 1年目の研究を対象とした中間評価の視点

研究の見通しや進捗の評価を主な目的とする。なお、進捗等のよりの確かな評価を行うため、1年目におけるこれまでの研究目標の達成状況と、その根拠(データ等)を具体的に示すことを求める。

中間評価の視点は次のとおりとし、4段階(a~d)で評価する。

中間評価の視点	説明
研究の進捗状況	研究の目的・目標を効率的かつ計画通り達成するため、研究計画、実施方法、体制(研究遂行における研究代表者の主体性の確保を含め)が適切となっているか。
研究の見通し	研究の推進にあたり、研究目標の設定、研究計画、実施方法、体制、共同研究者の役割分担が明確になっているか。

評点	説明
a	適切である／順調である
b	概ね適切である／概ね順調である
c	やや適切でない／やや順調でない
d	適切でない／順調でない

(1-2)2年目の研究を対象とした中間評価の視点

研究の進捗に伴い、研究成果の見通しの評価に重点を置く(特に1年目の評価結果が芳しくなかった研究については、慎重に評価を行う)。なお、進捗等のよりの確な評価を行うため、2年目におけるこれまでの研究目標の達成状況や得られた研究成果と、その根拠(データ等)を具体的に示すことを求める。

中間評価の視点は次のとおりとし、4段階(a~d)で評価する。

中間評価の視点	説明
研究の進捗状況	研究の目的・目標を計画通り達成するため、1年目の評価結果を踏まえ、研究は適切に進捗しているか。
研究成果の見通し	当初計画通りの研究成果が期待できるか(研究の進展により、独創的、画期的な研究成果が期待できるか)。また、研究成果の活用方策が明確になっているか。

評点	説明
a	順調である／大いに期待できる
b	概ね順調である／ある程度期待できる
c	やや順調でない／あまり期待できない
d	順調でない／期待できない

(2) 中間評価の基準

中間評価の視点ごとの評価を踏まえ、研究継続の妥当性について4段階(A~D)で総合的に評価。

評点	区分	説明
A	現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B	現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C	研究計画を修正の上 推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D	中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

中間評価シート(1年目の研究対象(左)、2年目の研究対象(右))

【様式1】-1

中間評価シート(1)(1年目の研究対象)

評価分科会委員

番号	研究名	研究代表者

1. 中間評価の結果

中間評価の視点	評点	意見
研究の進捗状況	a 順調である	
	b 概ね順調である	
	c やや順調でない	
	d 順調でない	
研究の見通し	a 適切である	
	b 概ね適切である	
	c やや適切でない	
	d 適切でない	

研究継続の妥当性評価	意見
A 現行のとおり推進	
B 現行のとおり推進(指摘事項あり)	
C 研究計画を修正の上推進	
D 中止	

2. 特記事項

(研究計画の修正を要する場合の修正内容、今後の研究計画・方法への指摘事項等。)

【様式1】-2

中間評価シート(2)(2年目の研究課題対象)

評価分科会委員

番号	研究課題名	研究代表者

1. 中間評価の結果

中間評価の視点	評点	意見
研究の進捗状況	a 順調である	
	b 概ね順調である	
	c やや順調でない	
	d 順調でない	
研究成果の見通し	a 大いに期待できる	
	b ある程度期待できる	
	c あまり期待できない	
	d 期待できない	

研究継続の妥当性評価	意見
A 現行のとおり推進	
B 現行のとおり推進(指摘事項有り)	
C 研究計画を修正の上推進	
D 中止	

2. 特記事項

(研究計画の修正を要する場合の修正内容、今後の研究計画・方法への指摘事項等。)

(3) 中間評価結果と評価コメントとの関係・位置づけ

中間評価結果(研究継続の妥当性評価(A~D))と評価コメントとの関係・位置づけは下記のとおりとする。

評価結果	区 分	評価結果と評価コメントとの関係	評価コメントの位置づけ
A	現行のとおり推進	「現行のとおり推進」となっているため、「2. 特記事項」には「参考意見」のみ記載。	「参考意見」 (「アドバイス」の位置づけ)
B	現行のとおり推進 (指摘事項有り)	「現行のとおり推進」ではあるが、「指摘事項有り」となっているため、「2. 特記事項」には「今後の研究計画・方法への指摘事項」を記載(参考意見とし、修正内容はなし)。	「指摘事項」 (「留意事項」の位置づけ)
C	研究計画を修正の上 推進	「研究計画を修正の上推進」となっているため、「2. 特記事項」には具体的に修正すべき「修正内容」とともに、留意すべき「今後の研究計画・方法への指摘事項」を記載。	「修正内容」 (「研究計画の具体的修正内容」の 位置づけ)
D	中止	「中止」となっているため、「2. 特記事項」には研究を中止することが妥当と判断される理由等を記載。	「中止理由」 (「研究中止の理由等」の位置づけ)

1-4. 提出書類及び期限

※赤字はH25からの主な変更点

(1) 提出書類

各研究の研究代表者は、以下の書類を提出

- ①「研究状況報告書」(A4原稿10枚以内)
- ②「研究開発年次計画・経費に関する調書」
- ③「研究概要(パワーポイント原稿4枚で作成)」

【主な記載事項】

(1年目の研究)

研究内容(研究名、体制、概要等)、見通し、進捗状況、**アピールポイント**等

(2年目の研究)

研究内容(研究名、体制、概要等)、進捗状況(1年目の中間評価指摘事項への対応等)、成果の見通し、**アピールポイント**等

※上記①②の詳細は右記参照。③は会議用・公表用資料として使用予定。

(2) 提出期限

平成27年1月28日(水)必着

※提出書類①10.-12.は非公表

項目		1年目	2年目
提出書類①	1.研究代表者	氏名、所属、役職	
	2.研究テーマ	名称、政策領域、公募タイプ	
	3.研究経費	各年度の委託額/計画額	
	4.研究者氏名	研究代表者以外の主な研究者氏名、所属、役職	
	5.研究の目的・目標	提案書に記載した研究の目的・目標	
	6.これまでの研究経過	研究の進捗状況及びその根拠(データ等)	
		研究計画、実施方法、体制の妥当性	—
	7.研究成果の発表状況	—	国際会議、学会等の発表状況
	8.研究成果の活用方策	—	成果の活用方法・手段等
	9.特記事項	研究の見通し・進捗の自己評価、 アピールポイント 等	成果の見通しの自己評価、 アピールポイント 等
	10.研究遂行上の問題点等	問題点及びその解決方法、見通し、要望等	
	11.次年度以降の研究計画	H27年度(以降)の研究計画・方法、外注の有無	
12.研究遂行における外注の実施	外注の目的、必要性、範囲等		
提出書類②	1.全体研究計画	研究項目・年度毎の研究経費(直接・間接経費含む税込額)	
	2.H27年度計画	研究の概要、内容	
	3.H27年度必要経費概算	委託事務処理科目区分に基づく経費概算額	

1-5. 中間評価の体制

- 評価対象研究をソフト分野及びハード分野に区分し、2つの分科会を設置。
- 各分科会は、新道路技術会議委員(7~8名程度)、行政官(1名)、研究官(1名)で構成。
- 各分科会の分科会長は、新道路技術会議委員の中から選出。

1-6. 中間評価の手順(スケジュール)

中間評価の手順は、次のとおり。

① 書類の事前査読(書面による評価) (1月下旬～2月中旬)

- 事前査読は実施するが、書面による評価の実施は任意とする。
- 委員からの質問・コメントがある場合は、研究評価会に向けて研究代表者へ事前に連絡。

② 研究評価会の開催(ヒアリングによる評価) (2月中旬頃)

- 分科会毎に研究評価会を開催(1課題あたりの時間は、報告15分、質疑15分、審議5分)(P. 15(別紙2)参照)
- 報告・質疑を踏まえ、分科会各委員は各課題の中間評価シートを作成。
- 各委員からの中間評価シートを基に、中間評価(案)を作成するための審議を実施。

③ 中間評価(案)の作成 (2月中旬～下旬)

研究評価会后、分科会長は中間評価(案)を作成。

④ 中間評価の決定 (3月上旬頃)

新道路技術会議において中間評価(案)を審議し、合議により中間評価を決定。

1-7. 評価結果の通知及び公表

中間評価結果は研究代表者に書面にて通知し、道路局ホームページ等において研究状況報告書、研究概要と併せて公表(3月中旬頃予定)。

2. FS評価

2-1. 目的

革新的研究調査(以下「FS」)評価は、新道路技術会議においてFS研究として採択され、実施されている研究について、期待する研究成果が得られるかどうかを評価し、新規課題として採択するかどうかを決定することが目的。

2-2. FS評価の対象

FS評価の対象は、FS研究(単年度)として採択されたもの。

2-3. FS評価の視点及び基準

(1)FS評価の視点

FS研究の評価にあたっては、研究成果の見通しに重点を置く。なお、研究成果の見通し等のよりの確な評価を行うため、FS研究における研究目標の達成状況と、その根拠(データ等)を具体的に示すことを求める。

評価の視点は次のとおりとし、4段階(a～d)で評価する。

FS評価の視点	説明
FS研究による研究成果の見通し	FS研究より、計画通りの研究成果が期待できるものとなっているか。
FS研究結果を踏まえた研究計画の妥当性	FS研究結果を踏まえた研究計画が妥当なものとなっているか。

評点	説明
a	大いに期待できる／妥当である
b	ある程度期待できる／概ね妥当である
c	あまり期待できない／やや妥当でない
d	期待できない／妥当でない

(2)FS評価の基準

FS評価の視点ごとの評価を踏まえ、研究継続(新規課題として採択)の妥当性について3段階(A, B, D)で総合的に評価。

評 点	区 分	説 明
A	新規研究として採択	実現性は十分あると評価する。よって、次年度の新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
B	新規研究として採択 (指摘事項有り)	実現性はあると評価するものの、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度の新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
D	不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

FS評価シート

【様式 1】

FS評価シート

評価分科会委員	
---------	--

番号	研究課題名	研究代表者

1. FS評価の結果

FS評価の視点	評点	意見
FS調査による研究成果の見通し	a 大いに期待できる	
	b ある程度期待できる	
	c あまり期待できない	
	d 期待できない	
FS調査結果を踏まえた研究計画の妥当性	a 妥当である	
	b 概ね妥当である	
	c やや妥当でない	
	d 妥当でない	

研究継続の妥当性評価		意見
A	新規課題として採択	
B	新規課題として採択（指摘事項有り）	
D	不採択	

2. 特記事項

（研究計画の修正を要する場合の修正内容、今後の研究計画・方法への指摘事項等。）

2-4. 提出書類及び期限

(1) 提出書類

各研究課題の研究代表者は、以下の書類を提出

- ①「研究状況報告書(FS研究対象)」(A4原稿10枚以内)
- ②「研究開発年次計画・経費に関する調書」
- ③次年度以降の「研究計画書(FS研究の結果を踏まえたもの)」
- ④「研究概要(パワーポイント原稿4枚で作成)」

【主な記載事項】

研究内容(研究名、体制、概要等)、見通し、進捗状況、**アピールポイント**等

※上記①②の詳細は右記参照。④は会議用・公表用資料として使用予定。

(2) 提出期限

平成27年1月28日(水)必着

【研究状況報告書の記入項目・内容】

記入項目	内容
①研究代表者	氏名、所属、役職
②研究テーマ	名称、政策領域、公募タイプ
③研究経費	当該年度の受託額
④研究者氏名	研究代表者以外の主な研究者氏名、所属、役職
⑤研究の目的・目標	提案書に記載した研究の目的・目標
⑥FS研究の結果	FS研究により得られた結果(FS研究における研究目標の達成状況とその根拠(データ等))
⑦本格研究の見通し	FS研究の結果を踏まえた、本格研究における成果の見通し、研究目標の達成見込、成果の活用方法等
⑧特記事項	FS研究から得られた知見、学内外等へのインパクト、 アピールポイント 、自己評価等

2-5. FS評価の体制

- 評価対象研究をソフト及びハード分野に区分し、2つの分科会を設置。
- 各分科会は、新道路技術会議委員(7~8名程度)、行政官(1名)、研究官(1名)で構成。
- 各分科会の分科会長は、新道路技術会議委員の中から選出。

2-6. FS評価の手順(スケジュール)

FS評価の手順は、次のとおり。中間評価のスケジュールに合わせて実施。

① 書類の事前査読(書面による評価) (1月下旬～2月中旬)

- 事前査読は実施するが、書面による評価の実施は任意とする。
- 特記事項(委員からの指摘等)がある場合は、研究代表者へ事前に連絡。



② 研究評価会の開催(ヒアリングによる評価) (2月中旬頃)

- 分科会毎に研究評価会を開催(1課題あたりの時間は、報告15分、質疑15分、審議5分)(P. 15(別紙2)参照)
- 分科会各委員はFS評価シートを作成。
- FS評価シートを基に、FS評価(案)を作成するための審議を実施。



③ FS評価(案)の作成 (2月中旬～下旬)

研究評価会后、分科会長はFS評価(案)を作成。



④ FS評価の決定 (3月上旬頃)

新道路技術会議においてFS評価(案)を審議し、合議によりFS評価を決定。

2-7. 評価結果の通知及び公表

FS評価結果は研究代表者に書面にて通知し、道路局ホームページ等において研究状況報告書、研究概要と併せて公表(3月中旬頃予定)。

評価分科会 評価担当研究課題・委員(案)

別紙1

分科会	領域	タイプ	採択	委託研究テーマ (※はFS研究を示す(3件))	研究代表者	評価分科会	
						分科会長	委員
ソフト分科会	1	I	25	広域道路ネットワークの耐災害信頼性から観たリンクの脆弱度及び改良優先度の実用的評価手法の開発と適用性評価	東京大学 教授 家田 仁	朝倉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大野委員 ・加藤委員 ・柴崎委員 ・根本委員 ・野村委員 ・福井委員 ・森川委員 ・道路局担当官 ・国総研担当研究官
	2	Ⅲ	25	物流の効率化と環境負荷の低減の両立を目指した道路政策についての研究開発	京都大学大学院 教授 谷口 栄一		
	6	I	25	事故発生位置情報を用いた事故分析総合システムの研究開発	東京大学 特任教授 山田 晴利		
	1	Ⅲ	26	次世代モビリティ社会を踏まえた移動空間評価手法の開発研究※	名古屋大学 教授 山本 俊行		
	特	Ⅳ	26	首都圏3環状道路の効率的な運用に関する研究開発	東京大学 教授 大口 敬		
	特	Ⅳ	26	首都圏三環状概成時を念頭においた料金施策とITS施策による非常時を含む総合的交通マネジメント方策の実用化	一橋大学 根本 敏則		
ハード分科会	4	Ⅱ	25	道路橋示方書の改定を踏まえた性能設計概念に基づく設計照査手法についての研究開発一特に下部構造物を中心として	岐阜大学 教授 本城 勇介	前川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・清野委員 ・末岡委員 ・谷委員 ・那須委員 ・二羽委員 ・森委員 ・道路局担当官 ・国総研担当研究官
	8	Ⅱ	25	繊維シートや鋼板によって補強されたRC部材の再劣化に対する健全度評価法の開発	東北大学 教授 鈴木 基行		
	8	Ⅱ	26	表面処理技術を応用した腐食鋼桁端部の性能回復技術に関する研究開発	琉球大学 准教授 下里 哲弘		
	8	Ⅱ	26	高性能鋳鉄床版の開発※	九州工業大学 教授 山口 栄輝		
	8	Ⅱ	26	非破壊試験を用いたコンクリート構造物の表層品質検査システムの構築※	広島大学 准教授 半井 健一郎		

研究評価会 ソフト／ハード分科会
議事次第(案)

日時:平成27年2月中旬頃
13:00～17:00

1. 開会

2. 挨拶、実施方法の説明(13:00～13:10)

場所:霞ヶ関周辺(予定)

3. 研究報告(1課題あたり30分)

1)研究課題1(13:10～13:40)

2)研究課題2(13:40～14:10)

3)研究課題3(14:10～14:40)

～休憩(5分)～

4)研究課題4(14:45～15:15)

5)研究課題5(15:15～15:45)

6)研究課題6(15:45～16:15)

～休憩(10分)～

4. 中間評価・FS評価の実施(16:25～17:00)

1)研究継続の妥当性評価について

2)中間評価(案)・FS評価(案)のとりまとめについて 等

5. 閉会(17:00頃)

1研究課題あたりの時間配分

○15分報告(パワーポイント使用予定)

○15分質疑応答

○約5分審議